教科 科目 単位数	公民 倫理 2	受信校	北海道興部高等学校	学科 学年（年次） 履修・実施	普通科 第2学年 必修・一斉
教科書 副教材	「新倫理」（35・清水・倫理703） 高等学校 新倫理ワークノート（清水出版）				

1 目標

- ・人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
 - ・現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 - ・広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
- （高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）より）

2 学習のポイント

- (1) オリエンテーション時に示す「授業のルール」を守り、積極的に活動に取り組んでください。
- (2) 基本的には準拠ノートを活用しますが、ワークシート等を配布する場合があります。
- (3) みなさんの主体的で対話的な学びを期待していますので、自分の出来る範囲で様々な活動にチャレンジしてみましょう。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評価へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明できる	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

(2) 評価方法と観点との関連（◎＝特に関連の深いもの）

評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア 学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ ワークシート	◎	◎	○	ノートやワークシートへの記述
ウ 発表	◎	○	○	授業内での発表
エ テスト	◎	○		単元テスト
総括時の比率	1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

(1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。

(2) 授業時間を充実した楽しい時間にするためには、皆さんの主体的な活動が大切になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることも特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。

(3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、クラスルームやワークシートに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画（計70時間）

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
	○オリエンテーション	1	・遠隔授業の学習について	・アンケートへの回答などを通じた皆さんとのブレイクタイムです。	
4 / 5	第1章 現代を生きる自己の課題 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究 第2編 人間としての自覚 第1章 哲学の始源:ギリシア思想 第2章 唯一神の宗教:キリスト教・イスラーム教	6	1 心の機能と個性 2 パーソナリティの形成と「私」 1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達 第1節 愛の教え—キリスト教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第2節 戒律と平等の教え—イスラーム教	・さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解させる。 ・心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティに着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 ・心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 ・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚させる。 ・ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察させる。 ・プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察させる。 ・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教	①定期考査・課題 ②定期考査・ワークシート ③授業へ参画する姿勢

			<p>ム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察させる。 ・イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察させる。 		
	第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教	6	<p>◇単元テスト</p> <p>第1節 智恵と慈悲の教え—仏教</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教とその後の展開 <p>◇単元テスト □対面授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察させる。 ・仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察させる。 	
	第4章 芸術と倫理	6	<p>第2節 仁と礼の教え—儒教</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想 <p>◇単元テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 	
6 / 7	<p>第3編 現代をかたちづくる倫理</p> <p>第1章 近代の成立</p> <p>第2章 世界と人間をめぐる探究</p>	5	<p>第1節 人間の尊厳</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界 <p>第2節 真理の認識—経験論と合理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を根本から考えなおすための手掛かりとして、西洋の近代の特徴を理解させる。 ・合理化や進歩、進化という概念から現代の諸課題を考察させる。 ・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察させる。 ・自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察させる。 	
8 / 9 / 10		3	<p>3 理性の光—デカルト</p> <p>◇単元テスト</p> <p>第3節 民主社会と倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由—カント 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を 	

		3 自己実現と自由—ヘーゲル ◇単元テスト	尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる。	
		5 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福 ◇単元テスト		
		6 第4節 現代社会と個人 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平—実存主義 3 世界と存在そのもの—現象学 ◇単元テスト	・民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる。 ・自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察させる。 ・世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察させる。	
10 / 11 / 12		4 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕 第5節 近代の世界観・人間観の問いなおし 1 理性主義への反省 2 言語論的転回 3 科学観の転換 ◇単元テスト □対面授業	・社会参加と奉仕を实践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深めさせる。 ・近代の世界観や人間観を問い直す知見を備えた現代の諸思想を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について考察させる。	
	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と精神文化	4 第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観 1 風土と日本人の生活 2 日本における神の観念 3 神と仏の出会い ◇単元テスト	日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方や風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。	
		9 第2節 日本人の仏教受容 1 古代仏教の思想 2 鎌倉仏教の思想 第3節 近世社会の思想 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 6 近代的国家への道	・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。 ・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。 ・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解させる。 ・近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどの	

令和5年度 遠隔授業配信シラバス（2年）

			◇単元テスト	ように影響を及ぼしたかを理解させる。	
1 / 2 / 3	2章 日本の近代化と人々の生き方	2	第1節 西洋近代精神の摂取 1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突 ◇単元テスト	・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解させる。	
		6	第2節 近代的個人の自覚 1 近代的自我の成立と個人主義 第3節 主体的な生き方と価値観の模索 1 近代日本の哲学者 2 近代日本の思想傾向への反省 3 現代日本と私たちの課題 ◇単元テスト	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、民俗学の知見を手掛かりに、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。 ・	
	第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 第2章 社会や文化にかかわる諸課題	7	第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の発展とその課題 第2章 社会や文化にかかわる諸課題 1 文化や宗教の多様性と倫理 2 国際平和と人類の福祉 ◇まとめ	・先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。 ・先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。	